私は、平成28（2016）年６月から平成29（2017）年３月までの予定で、本県の友好交流先である韓国・京畿道（キョンギド）に交流職員として、派遣されている牧下弘一と申します。

１　韓国の世界遺産

突然ですが、韓国に世界遺産がいくつあるか御存知ですか。

百済歴史遺跡地区（2015）、南漢山城（2014）、韓国の歴史村：河回と良洞（2010）、朝鮮王朝王陵（2009）、済州火山島と溶岩洞窟（2007）、高敞・和順・江華コインドル遺跡（2000）、慶州歴史地区（2000）、昌徳宮（1997）、華城（1997）、海印寺・蔵経板殿（1995）、宗廟（1995）、石窟庵と仏国寺（1995）の計12あります。（ちなみに、日本は19。）

そのうち、 南漢山城、朝鮮王朝王陵の一部そして 華城の３つが 京畿道にあります。

２　京畿道にある世界遺産

京畿道にある世界遺産は、その全てが朝鮮王朝と関係が深いものです。朝鮮王朝は、1392年から1910年まで約500年にわたり、朝鮮半島を治めていた国家です。日本の時代で言えば、南北朝時代から明治時代にかけて長い期間存続していました。その間、王様は27人いますが、その中でも名君の一人と言われているのが、第22代国王の正祖（チョンジョ）（在位期間1776年～1800年）です。身分にとらわれずに能力ある人物を積極的に登用することや、文芸と学問の振興のための「奎章閣（キュジャンガク）」を設置して、中国や朝鮮の書物を収蔵し、文献研究や政策立案が行われました。このようなことから、貴族層だけでなく、一般庶民まで文化に関心をもつようになり、学問と文化が大いに栄えたといわれています。

３　第22代国王正祖、隆健陵（ユンゴンルン）と華城（ファソン）

積極的に改革を実行し、順調にすごしていたように思える正祖ですが、幼少の頃から朝廷内の政争を目の当たりにして生きてきました。特に、父親である荘献世子（チャンホンセジャ）が朝廷内の派閥争いに巻き込まれ、祖父である第21代国王の英祖（ヨンジョ）（在位期間：1724年～1776年）の命令により、平民に降等され、米櫃の中に閉じ込められ、８日後に餓死するという事件（辛壬士禍：シンインサファ）は心に刻み込まれたと思われます。

正祖は、王に即位してから、亡くなった父親を偲び、父親の身分を回復し、先王として追尊するとともに、陵墓を築きました。そして、その周囲に自分の政治の理想を実現させるための都城を建設しました。それが隆陵（ユンルン）であり、華城（ファソン）です。

４　隆健陵（ユンゴンルン）

(1) 朝鮮王陵と隆健陵

隆健陵とは、世界遺産である朝鮮王陵の１つです。王陵は先祖とその業績を称え、尊敬を表し、王室の権威を固める一方、先祖の魂を邪氣から保護し、陵墓の毀損を阻止する役割を果たしたと考えられており、18地域に散らばっていて、計40基にのぼります。

隆健陵とは、隆陵（ユンルン）と健陵（ゴンルン）の二つの陵墓を合わせて、そう呼ばれており、京畿道華城市にあります。京畿道の中には、隆健陵の他、高陽市や坡州市等にも王陵が存在しています。

(2) 隆陵

隆陵は第21代国王英祖の子であり、第22代国王正祖の父親である荘献世子(思悼世子、

荘祖ともいう。)とその妃・獻敬懿（ホンギョンウイ）皇后のお墓です。本来、別な場所にありましたが、荘献世子が罪人の身分で他界したため、墓も王陵としての格式を備えていませんでした。そのため、息子の正祖が父親のために格式を整えて造成した陵墓が、この隆陵です。

父親の恨みを晴らし、自分の王位継承を正当化しようとした（罪人の子は王になれないという意見に対抗する）という意味合いもあるようです。隆陵は長い間臣下たちの反対にあい、王陵の地位を得ることができませんでしたが、荘献世子の死後130年余り後の1899年に玄孫にあたる第26代国王高宗により王陵の地位を与えられました。

(3) 健陵

健陵は、第22代国王正祖及び妃の孝懿（こうい）王后が眠っています。父親の傍に埋葬されることを望んだ正祖の希望どおり、隆陵の隣に作られました。父親思いの正祖の人柄が偲ばれる遺跡であると言えます。

遺跡の中は、緑が多く、とても静かで落ち着いた雰囲気があり、散策にも適しているところだと思います。都会の喧騒を離れて、気持ちを落ち着かせたい時などもぴったりの場所です。

場所：〒445-380　京畿道華城市ヒョヘン路481番ギル21（安寧洞187-1）

경기도 화성시 효행로 481번길 21(안녕동187-1)

電話：+82-(31) 222-0142

行き方：地下鉄１号線「餅店」駅（ピョンジョム／병점역）下車２番出口から市内バスで15分程（34,34-1,35-1,46,50,1551番）乗車、「 隆健陵（ユンゴンルン／융건릉）」下車。

観覧時間：２月～５月、９月～10月　9:00～18:00（入場券販売時間は17:00まで）

６月～８月　9:00～18:30（入場券販売時間は17:30まで）

11月～１月　9:00～17:30（入場券販売時間は16:30まで）

※　観覧所要時間約40分、毎週月曜日休み

観覧料金：1,000ウォン

HP：http://jpn.cha.go.kr/japanese/html/sub1/index.jsp（文化財庁ホームページ）

５　華城(ファソン)

華城は京畿道水原市にある朝鮮時代の城郭です。第22代国王である正祖が自分の父親である荘献世子に対する孝心を表し、自分の理想を実現する新都市として建設しましたが、完成直後に正祖が亡くなったため、遷都は見送られました。

1794年2月に着工して2年半にわたる工事後、完工され、城郭全体の長さは5.74kmであり、高さ４～６mの城壁が130haの面積を囲んでいます。

勤務している京畿道庁のほど近くにあり、昼休み時は散歩をする職員も多くいます。また、ちょうど行われていたミュージカル「正祖」を見ましたが、その中でも正祖が直接、民衆の意見を聞く場面も描かれており、軍事的な面だけでなく、商業の中心地としても華城を発展させようとしていたということです。

華城は、居住地としての邑城と防御用の山城を合わせて作られた城郭都市ですが、伝統的な築城手法に東洋と西洋の新たな科学的知識と技術を積極的に活用しているということ、周辺地形によって自然な形で造成し、独特な美しさを見せていることなどの特徴があり、建築史的にも意味が大きいそうです。また、私は残念ながら、見ることはできなさそうですが、春の時期は桜が大変きれいだそうです。

私の前に行っていた先輩も華城のことについて書いておりますので、こちらも参照ください（http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f90006/p392531.html）。

ミュージカルのパンフレット

場所：京畿道水原市八達区行宮路 11(南昌洞 14)
경기도 수원시 팔달구 행궁로11(남창동14)
電話：+82(31)290-3600
行き方：水原駅下車４番出口から市内バス（11,13）に乗車、「華城行宮（ファソンヘングン／화성행궁）」下車
HP：http://japan.swcf.or.kr/?p=31（水原文化財団ホームページ）

６　南漢山城（ナマンサンソン）

(1) 歴史・概要

最後に紹介するのが、京畿道広州市にある南漢山城です。海抜480m以上の自然地形を利用し、11kmを超える城壁を構築しており、面積は2.12km²になります。ソウルから南東に25km離れた山地に築城された南漢山城は朝鮮王朝時代(1392年～1910年)に、有事の際に備えて臨時首都としての役割を担うように建設された山城です。

しかし、実際の歴史はもっと古く、南漢山城の初期の遺跡には7世紀のものもあり、その後数回にわたり増築、改築されています。特に17世紀初め、中国満州族が建設した清国の脅威に対抗するために、大々的に建て直されたということです。

そして、清軍に対する抗戦の舞台となったのが、この南漢山城です。その時の王が第16代国王の仁祖（インチョ）（在位:1623年～1649年）で、朝鮮王朝の中で最大の屈辱を受けた王とも言われています。

西門

北門

(2) 丙子の役

中国では17世紀初め、明が衰えを見せ、後金が勢力を伸ばしていました。1627年、後金は反後金親明的な政策をとっていた朝鮮王朝に攻め込み、後金を兄とし、朝鮮王朝を弟とする等の和議を結びました（丁卯胡乱）。

その後、1636年、後金は国号を清と改め、皇帝ホンタイジが兄弟関係であった朝鮮王朝に臣従関係を結ぶよう要求。第16代国王の仁祖は、清の要求を拒絶。清は謝罪しなければ、攻撃すると脅しましたが、それも黙殺。これに激怒したホンタイジは自ら10万の大軍を率いて、朝鮮王朝に侵攻しました。

当初、江華島へ逃れ抗戦する予定でしたが、進撃速度の早かった清軍に道をふさがれたため、南漢山城に入城しました。しかし、南漢山城には十分な兵力も食料もなく、47日間の抗戦の後、降伏を決意した仁祖は1637年１月30日、漢江南岸にある三田渡（サンチョンド）にある清軍本営に出向き、ホンタイジへ三跪九叩頭の礼（手を地面につけ、額を地面に打ち付ける行為を合計９回する行為で、皇帝の前で臣下が行う行為）をとらされ、清に臣下としての礼を尽くすこと、王子を人質として送ること、明を征服する時は援軍を派遣することなどを内容とする和議が結ばれ（「三田渡の盟約」）、清の冊封体制に組み込まれました。

ちなみに、仁祖は徳川家光の時代に３回も日本に使者を送っています。歴代27人の王の中で、３回使者を送っているのは、仁祖と第19代粛宗だけであり、日本との関わりも深い王様です。

(3) 南漢山城行宮（ナマンサンソンヘングン）

華城にもありますが、王がソウルの宮廷から都城の外にお出ましになる場合、一時的な居場所とするところを行宮（ヘングン）といいます。

南漢山城にも行宮があり、南漢山城行宮は、宗廟（祖先の位牌をまつる建物）と社稷（土地や穀物の神を祭る祭壇）を置いている唯一の行宮で、仁祖以降も第19代粛宗、第21代英祖、第22代正祖、第25代哲宗、第26代高宗などが、驪州、利川などの御陵への行幸の際に利用したことがあるということです。

(4) 憩いのスポットとしての南漢山城

現在は、京畿道の道立公園として管理されています。山に築かれた城であり、自然も豊富で見どころもたくさんあり、道路も整備されているため、ハイキングコースとして人々に親しまれています。韓国は気軽に登山を楽しむ人が多いため、たくさんの人が南漢山城道立公園での散策を楽しんでいます。推薦コースも2.9kmを１時間で回るコースから、7.7kmを３時間20分で回るコースまであります。

傾斜がきつい所もありますが、きれいな景色の中で世界遺産を巡りながら、散策してみるというのはどうでしょうか。

場所：京畿道広州市南漢山城面南漢山路731
　　경기도 광주시 남한산성면 남한산성로731
電話：+82(31)777-7500（南漢山城世界遺産センター）
行き方：地下鉄８号線「サンソン（산성）」駅下車２番出口から市内バス（９,52）に乗車、
　　「南漢山城ロータリー（남한산성 로터리）」下車
HP： http://nhss.ggcf.kr/（南漢山城世界遺産センターホームページ、日本語自動翻訳対応）

（南漢山城行宮）
観覧時間：10:00～17:00　毎週月曜日休み（祝日を除く）
観覧料金：19才～64才　2,000ウォン／７才～18才　1,000ウォン